

# みみづく

復興・市民活動情報誌

第21号

特集 2~7	KEC10周年記念みみづく座談会 市民活動の来し方・行く末を占う
8~9	市民メディア革命の予感④ 市民メディア「はっしー」
10~11	進めがね・虫めがね ・市民の情報化、情報の市民化 ・いまアナタが伝えたいことは なんですか?
12	ラオス通信③
13	NPOの「政策提言力向上セミナー」開催
14	みみづく舎 オープン!
15	KEC総会報告・お祝いへのお礼
16	KEC事務局カレンダー ご入会・ご寄付等お礼



特定非営利活動法人 市民活動センター神戸 Kobe Empowerment Center(KEC)  
〒650-0022 神戸市中央区元町通6-7-9 秋葉ビル3F TEL:(078)367-3336 FAX:367-3337  
E-mail kiroku@kobekec.net URL http://www.kobekec.net

市民活動への期待とNPOの事業効果による社会変革の可能性が声高に言われて早10年、この秋には法人格を持つ市民活動団体は2万4千にのぼり、数の上では一大勢力化したようにも見えます。その中に団体そのものの持つミッションが明確で、解決課題を明確にしあクションを起こしている団体はどれほど存在するのでしょうか。介護保険事業者となるのに手取り早いから、バックグラウンドもなくとりあえず法人化ありき、NPOを傘に着た似非団体等々、我々の思いとは程遠いものも少なくありません。また、本来の市民性の高い団体であっても事業推進に関わる関係者のパッショーンはどれほどものでしようか。残念ながらNPO的な働き方、価値観、生き方とは別の次元にいる関係者によく出会います。

市民活動団体が新しい公共の姿を創り出すためには、団体そのものが生き物として成長しミッション達成に向かって歩む道筋を示すことのできるマネージャークラスの存在が重要です。そのような関心から、専門学校と協働しNPOマネジメントコースの立ち上げを試みたり、NPOの中堅クラス向けにゼミ形式の講座などを実施しています。最近は、ソーシャル・アントレプレナーの育成に関わるようになり、若者の社会的起業意識や働きの場としてのNPOへの関心の高さを実感しています。

しかし、出会う若者（若者だけではないが）の思いや関心の高さとは裏腹に、実際には、課題が明確にしきれない、ターゲットが絞りきれない、

市民活動への期待とNPOの事業効果による社会変革の可能性が声高に言われて早10年、この秋には法人格を持つ市民活動団体は2万4千にのぼり、数の上では一大勢力化したようにも見えます。その中に団体そのものの持つミッションが明確で、解決課題を明確にしあクションを起こしている団体はどれほど存在するのでしょうか。介護保険事業者となるのに手取り早いから、バックグラウンドもなくとりあえず法人化ありき、NPOを傘に着た似非団体等々、我々の思いとは程遠いものも少なくありません。また、本来の市民性の高い団体であっても事業推進に関わる関係者のパッショーンはどれほどものでしようか。残念ながらNPO的な働き方、価値観、生き方とは別の次元にいる関係者によく出会います。

## 市民活動をマネジメントできる人材を

- 軽やかなフットワークでよい対人関係を築くことができる行動力とコミュニケーション力
- 個人、組織の持つ力関係、意思決定の構造などを読み取る洞察力やフレキシブルな対応力
- 関係者の個性・人格を尊重でき、わかりやすくビジョンを示し、目標達成に向けて関係者が参画できるよう導くことができる説明能力や提案力
- 関係者のコミュニケーション力を高めるために適切なサービスとサポートができる支援力
- 生活圏域の問題を可視化し、解りにくいことを解りやすく伝え、市民自らが当事者意識を高め解決へ努力できるよう促すことは、私たちの使命であり価値ではないかと思います。そうしたことを実現するソーシャル・アントレプレナーを、今後も育成支援していきたいと思います。

## K E C 10周年記念みみずく座談会

# 市民活動の来し方・行く末を占う

### ◆市民活動をふりかえる

#### —震災までの底流

言つてましたから（笑）。

**中村** 生涯やり続けられる仕事

がしたいと思つていた82年、神

阪神・淡路大震災が日本のボランタリズムの始まりと言わることがあります。市民

社会への非常に長い底流があつて、それが、震災で表に出たのだと私は思っています。まずは実践家のお二人に、震災前からの活動と、それが地震でどう変わったかを。

**村井** 被差別部落の問題、水俣病事件、神戸の港湾労働運動、そして81年頃からの在日韓国人スパイ事件と、自分のまわりにあった問題に関心を持ち続けてきました。だんだんしあんどくなつて長田の靴業界に入り、工房を借りて靴づくりに夢中になつていたときに地震が来た。すぐに仕事をできず、とりあえず知り合いを訪ねたのがきっかけで、ボランティア活動をするようになったのです。それまではボランティア活動なんて全然したこともないし、NGOの工の字も知らなかつた。単純にお手伝いしますよと言つたのが、気がついたら10年ということですね。水俣病に関わつてることは、市民活動じゃない、反公害闘争と

被差別部落の問題、水俣病事件、神戸の港湾労働運動、そして81年頃からの在日韓国人スパイ事件と、自分のまわりにあった問題に関心を持ち続けてきました。だんだんしあんどくなつて長田の靴業界に入り、工房を借りて靴づくりに夢中になつていたときに地震が来た。すぐに仕事をできず、とりあえず知り合いを訪ねたのがきっかけで、ボランティア活動をするようになったのです。それまではボランティア活動なんて全然したこともないし、NGOの工の字も知らなかつた。単純にお手伝いしますよと言つたのが、気がついたら10年ということですね。水俣病に関わつてることは、市民活動じゃない、反公害闘争と

体的に低調になつていきました。その後に、中村さんたちが行つているような地域の問題をはじめ、自分の暮らしや地域のあり

様をもう一回見つめなおそうと活動が生まれ、そこに飛び込んだのがきっかけです。高齢者から利用料をもらつて、ボランティアへの謝金や事務局経費にあつるしくみが気に入りました。今で言うNPOやコミュニティ・ビジネスの基本を勉強させてもらつたと思ってます。でもだんだん、人のお世話そのものより、それをせざるを得ない社会的な環境と仕組みに関心が向いて。

会も10年、「どもに生きる」というミッショングだんだん追いつきました。だんだんしあんどくなつて長田の靴業界に入り、工房を借りて靴づくりに夢中になつていたときに地震が来た。すぐに仕事をできず、とりあえず知り合いを訪ねたのがきっかけで、ボランティア活動をするようになったのです。それまではボランティア活動なんて全然したこともないし、NGOの工の字も

見られないようになる。そして、震災が起きNPO法ができるよう政治学では、良いことをしたいと言つては悪いことをする

2005.11.25 みみずく 第21号

2

ンティアや社会運動に燃えてる人だつて、危ないかも知れない

と見る。こういう意味での警戒感は今でも必要だと思います。

ただ、冷戦体制の崩壊以前は公共性の多元的な構造がなくて、社会運動といえば右か左かのどちらになつてしまつて、どちらも反対から見れば完全に悪

んでいた。つまり、公共性概念が、体制か反体制かで二分されていました。例えば、下手にボランティアって言うと国家動員につながると「革新」的な立場ですが、その後90年の「フィラソロピー元年」つまり「企業による社会貢献活動」が始まつて以降、市民活動は大きな社会的な広がりを持つてくるようにもなりました。

**今田** 岡本さんは理論と実践、

兩方から活動されています。震

災までの流れについては。

**岡本** 僕は団塊世代の下の世代で、学生自治会からアカデミズムの世界に入つて。震災を契機に中村さんたちと出会いました。

政治学では、良いことをしたいと言つては悪いことをする

ことは、国家だつて、自発的に良

いことをしようなんていうボラ

### ◆マネジメントと

#### NPOの本質

震災10年。災害という非常事を起したのですが、社会が豊かになつた80年ぐらいを境に全く

表現しながらパブリックに活動できるような政治的磁場ができてきたと理解しています。

**今田** そうした底流があつての震災10年。災害という非常を

いことをしようなんていうボラ

は言つてきましたが、今やN  
P〇の経営、マジメントが花盛  
りです。村井さんはそのへんに

**村井** そうやねえ（笑）、僕は

者がはつきりして活動から来てるから、経営なんてピンとこない。N G Oを日本の市民社会にどう位置づけるかがないままN P Oが入つてきただ感じで。ミツショーンをいかに実現するかがマ

はかり言つても仕方ないとか  
本末転倒な議論が先走つてると  
思います。

參田 中村さんには ミツシミン

**中村** 神戸は市民活動の先進地域ですけど、一方で、旧態依然とした守旧的なものがまだまだいっぱいあるんですね。9年前ろんな団体を競わせて使おうと

私たちの新しい運動は、今とにかく続けなきやいけないんです

元々マネジメントという言葉は、ミッションに即した組織運営を継続することの難しい、非営利組織のためにあつた（渡辺）

渡辺

中村

**岡本** 二正面作戦だと思うんです。一つは、財団とか社団とか公益法人とか、エスタブリッシュされたところのミッション性、運動性を高めること。あれつて経営だけ考えればミッションな

う、大きな意味での防災サイクルの中で、活動をどう維持するか考えないといけないんですね。その全体の中でとらえたら、私のところの一NGOをどう残すかは小さな問題です。

する。そんな現状で、私たちの新しい運動は、今とにかく続けなきやいけないんです。そのためには、ヒト、モノ、カネ、情報の最大の効率化を図らないといけない。NPOマネジメントにはルーティンの部分の「基本マネジメント」と、新しい価値をつくりだす「開発マネジメント」、2つ階層があると思いますが、開発は得意だけどルーティングが駄目だと気づいて、それに力を入れています。

ると、ある段階になると、どうしても組織化を考える必要が出てくる。その際にマネジメントが重要になつてくるのですが、これがほつとくと管理のためのものになりがちとなる。元々マネジメントという言葉は、ミツヨンに即した組織運営を継続することの難しい、非営利組織のためにあつたようです。そういう元々の意味での、合意形成のマネジメントをどうつくるか

**今田** 村井さんも、活動を続けていくには人も資金もある程度は要るわけですよ。

**村井** 私たちの災害救援ボランティアでいうと、事前の備え、緊急ステージ、復旧・復興という、大きな意味での防災サイクルの中で、活動をどう維持するか考えないといけないんですね。その全体の中だとしたら、私がいるところの一NGOをどう残すかは小さな問題です。

主務官庁制に  
もとづく財団  
法人や社団法  
人などをはじ  
めとするトヨタイ  
ー

ベ平連型組織まで、ミッションとの関係で幅はあつていひんですよね渡辺 それは今の公益法人制度改題にも関係し

んかなくてもいいんだからもう一つは、新しい小さいNPOがどうやつてある程度事業を継続できるかの問題。両方を同時にやらなきゃいけないのが、今最重要的課題だと。組織論でいえば、鉄の規律のレール型組織から

**岡本仁宏さん** 関西学院大学法学部教授(西洋政治思想史)、(特)福祉を拓く会理事長。  
震災の翌年から7年にわたって実施された関学の「白いリボン運動」を昨年復活させた(実行委員長)。この「第二次白いリボン運動」は募金運動を全国展開、集まった資金をNPO支援に活用するもので、初年度は防災、障害者・高齢者など災害弱者の支援に重点配分したほか、中越地震や台風23号、スマトラ地震などの災害による被災者の救援活動なども支援した。

**中村順子さん** (特)コミュニティ・サポートセンター(CS)神戸理事長。広告代理店勤務のち神戸ライフ・ケア協会に参加、震災を契機に東灘・地域助け合いネットワークを立ち上げ被災者支援活動に取り組む。96年「自立と共生」に基づくコミュニティづくりを支援するサポートセンターとしてCS神戸を立ち上げ、「東灘を中心にNPOを100つくる」ことを目標に、住民による活動の起業・育成に励む。

**今田忠さん** 市民社会研究所所長。日本生命財団、笹川平和財団、阪神・淡路コミュニティ基金代表などを歴任。日本NPO学会会長。KEC理事。

**村井雅清さん** 被災地NGO協働センター代表。震災後、被災者支援活動に取り組む一方、「阪神大震災地元NGO救援連絡会議」の分科会「仮設住宅支援連絡会」代表として、被災者支援団体の連絡・調整機能を担う。96年「阪神・淡路大震災『仮設』支援NGO連絡会」と改組し独立。98年、現名称に改称。国内外の災害被災地にKOBEの経験を伝え続ける。

2002年、専門家も含む市民の知恵や能力を集め災害被災地の生活再建や復興を支援することを目的に(特)海外災害援助市民センター(CODE)を設立、理事・事務局長。

**渡辺元さん** 日本ネットワーカーズ会議への参加、日本NPOセンターの設立、NPO法の制定等、日本の民間非営利活動の基盤整備に関わる。

(財)トヨタ財団プログラム・オフィサー(市民活動助成、研究助成を担当)として80年代半ば以来、先駆的な活動への支援を担い、現在、同財団シニア・フェロー。また、(特)市民社会創造ファンド運営委員、(財)公益法人協会客員研究員も務める。

いつときに発した言葉とか、情熱を注いだ行動というものは大きいと思う

(村井)

NPOはミッショングループがあるからこそ、言葉で言挙げをして、新しい事業を始める (岡本)



岡本 仁宏さん

ショナルでエスタブリッシュされたところは、ややもすると運動としてのミッショングループが成り立っていく状況になつてゐる感じがする。

村井 神戸は10年前、たくさんボランティアさんが来て、いろんな問題を投げかけてスターしたわけですね。そのいつときの現象というのは、やっぱり大事やないかと思うんですよ。いつときに発した言葉とか、情熱を注いだ行動というものは大きいと思う。

岡本 現実との緊張感を持たない団体は、ミッショングループなど単に「在る」だけです。何かのために、新しいものを動

かしていこうとしている、そこでぶどう畑に目が行つたんです。NPOはミッショングループがあるからこそ、言葉で言挙げをして、新しい事業を始めます。たとえばイエス様が生まれて、すごい言葉を発して、そのあとは経営して、カソリックという世界最大のNGOになつていく。最初の言挙げをする人の、ミッショングループをもつた言葉があつて、その人と事業との緊張感があつて、非常な力になります。この開発マネジメントともつながりますが、運動つていうのは言挙げのパワーかもしませんね。

#### ◆市民が市民活動を支えるしくみ

今田 同時に、市民が市民を支えるしくみがないとNPOは定着しないと思うんですが、どうもNPOは一般的の市民の間で存在感が薄い、うさんくさく思われる。

村井さん、CODEのぶどう基金は共感を呼んでいます。NPOは長らく戦ってきたアフガニスタンの人たちが、平穏な暮らしを築こうとしている、そこでぶどう畑に目が行つたんです。

村井 長らく戦ってきたアフガニスタンの人たちが、平穏な暮らしを築こうとしている、そこ

でぶどう畑に目が行つたんです。NPOは共感を呼んでいます。NPOは特定の畑に、少ない金額を、それを寄付ではなく貸し付けてきました。それを使って自分たちで収穫したもので生計を立てて營みをこつこつやってきたんですね。私たちのNGOが評価されたんではなくて、人々が生きるとはこういうことなんだという意識がいいということなんじゃないですかね。

中村 そうですね、まあ努力してないというのと、中間支援のわりにくさというのもあります。事業高がわりと高いので、なんであんなところに寄付しないといけないのかと、助成団体からも個人からもみられる。



渡辺 元さん

今田 でも、いいよねとみんなが感じるためには、それなりの仕掛けがいるわけですよ。

村井 それははつきり言つて考えていますよ、広報戦略は。CODEの露出度は相当高いともいいますが、運動つていうのは言挙げのパワーかもしませんね。

今田 渡辺さんが今の市民社会創造ファンデに関わるようになつたのは。

渡辺 そもそもその起りは日本NPOセンターですね。だんだんNPOが日本社会の中に浸透していく、一方では、企業の社会貢献活動も活発になつて、企業とNPOのパートナーシップなどが言われ出すなか、パートナーとしてのNPOに資金的な援助をしたいという企業が出てきて、当初、そのような相談は

提供するとかね。

今田 統計的には、環境や国際協力の、いわゆるNPOと名乗つてゐる組織は寄付のウェートが高い。それだけ市民の共感を得て

るのかなと感じるんですけど、介護系とか事業型は、それほど寄付のウェートが高くない。中村さんのところも、寄付や賛助会員というのはありませんよね。

めてくださつて、企業から出してもらえば早いかもしけないけれど、たくさんの人々に訴えてお金を集めることで、寄付の文化や、支えあい助け合う社会のイメージをつくることに貢献できます。ヨーロッパ政治の2大勢力、社会民主党とキリスト教民主党は、前者はギルド、労働組合で、後者は教会ですね。どちらも自分たちでお金をだしてやつてきて、それで專制君主との戦いもやつて来れたんです。そういう自分たちで自分たちを支えるしくみを、重層的につくつていく必要がある。委託事業の問題も同じですね。安くあがるから民間委託というんじやなく、同一労働同一賃金の原則に基づいて、マネジメントがいいとかノウハウを持つてるとか、委託するからこそ効率的にできる、というのでないといけない。もちろんまだまだ遠い話だけど、それだけの力としくみをつくらなきやいけないです。



中村 順子さん

格ウェイジ(\*)という法律のようないし、行政委託の労働者に生活できる賃金を保障するような制度に近づけたいですよね。今は賃金が低い上に、NPO同士でも足並みが乱れて、行政に好き放題やられちゃってる。NPOでネットワークをつくらないと。もつとおかしいのが、今やつてる指定管理者制度では、うちの指値より民間企業のほうが安かつた。NPOの価格を民間企業が破壊してきてるという実態もあります。

**渡辺** 最低限、受託する際に「『ただけは守ろう』みたいな原則がいりますね。そうしないと切り崩されるわけですから。

**今田** ぼくは談合しろって言つてるんですよ(笑)。NPOが談合しないとね。

## ◆新しい公益のつくり方

と、國家と獨立した民間の世界、市場経済世界があつて、國家はそれに寄生してゐるんだという発想が出てくる。本当は市民は經濟的・社会的に自立的に運動して、それを専制制度が抑圧している。この考え方と相応しているのが、宗教改革で、人間の内面において国家に抑圧されない一人一人の生き方を尊重しようとなつてくる。

この2つが市民社会論には入っているので、両方のポジティivist的な遺産を引き継ぎながら、新しい市民社会のあり方を考える必要があると思つています。つまり、市民社会は、公共的な統治権に対しても能動的であるという思想的遺産という国家から独立して世界を持つという思想的遺産を受け継いでいる。

現代的な話と結びつけて言うと、例えば、委託事業で、行政の下請けやつていいくのかといふ問題、僕はこれ非常にいいことだと思ってるんですね。古代的な民主主義論から言えば、すべ

ての市民が国家の勤務員になるのが理想です。選挙とか立法だけじゃないんです。民が公共事務の執行を直接担う。陪審員制などなんかそうですね。それも、国家だけじゃなくて、いろんなNPOがあるて、多様な公共性の解釈による様々な公務の形態があつて、民が公務を担うというのが、新しい公益のつくり方だと思うんです。公共性を、お上＝役所だけに独占させると、民は常に私益しか持てず倫理的にお上に従属させられる。「みんなのためにわがまま言ふな」ってね。

行政は究極のNPOである

(今田)

中村賃金なら公務員並とは言

最近言われてる協働は、私たちの側からじやなくて、官と行政の側から言い出した言葉ですよ。そこは気をつけないと困るんじゃないじやないかと思ひます。

## 中村 補完性の原理、神戸市も

打ち出して私も賛成なんですか  
ど、でも基本単位になる地域の  
セルフガバナンスが全然できて  
ない、議論がないままだと思う。  
地縁団体は地域のガバナンスに  
関与できる立場を得ているが、  
NPOは除け者になつて。何  
か巧妙な統治のやり方だと感じ  
るんですけど。

そういうことじやなくて、地域の中の具体的な課題を何のためにやつてるかによるわけでしょ。地縁系がそれなりにやつてるんならそれでもいいし、NPOがやつてもいい、やるんなら同じだけの補助金出しなさいということで。何をやるかですよ。補

村井 雅清さん



自分の地域に投入されてる社会サービス費用を調べようとしたが、全然わからない（中村議員も勉強して討議せざるを得なくなるような雰囲気づくりを（渡辺）

完性の原理を踏まえながら、行政と「わたりあつて」いけばい

**岡本** いんじやないか。

そんななかで本当に地域のガバナンスはあるんだろうかと思つて。情報の闇においていながら補完性の原理つて言われてもね。

◆ NPOと政治

今田 政治の話で、NPOが政

治に関するのはタブー視されるところがあるけど、でもそれは間違いで、やはり、市民社会をつくるうえで政治の重要性は非

**村井** 常に大きい。ただ閑わり方は、そのときどきの政局とか、問題を解決するときのルートとか、事柄について、進み具合ここつて違う

よって進み具合はよって違う  
でしょう。政治をきちっと

とらえてやらないと健全な地域社会というのにはあり得ないとは思ふ。

**中村** 私たちも政治を遠い世界に置いてたんですけど、指定管理者制度について各党の議員さんを呼んで勉強会しましたが、私たちの知らない議会情報も出

してくれたりして、あれは良かつたと思いますね。自分たちから議員を出すとかじゃなくて、適宜必要に応じて市民としての役割を持つてパートナーシップを組むことは。

**渡辺** 行政との協働やパートナー・シップはいろいろ言われるけど、議員や議会との関係性はほとんど語られてない。勉強会とか相談会、情報交換会でも、いろんな接点を意識的につくることは、NPO支援組織の仕事として、これから重要性が増すんじやないか。そのあたりがあまりにもなさすぎるのが以前から気になつているところです。

**今田** 地方政治の場合、地縁組織が一種の集票マシーンになつてきたという経緯があるので、NPOが政治に代表者を送り出すのは難しいような気もしますけど、どんなものでしよう。

**岡本** 個々のNPOが自分たちのイシューの関係で議員さんを使つて実現することは当然あつていい。それから、国では立法、地方でも条例の制定があるわけだから、それに影響を与える。

指定管理者制度なんかも、条例上の規定を、もっと良いものつくれということであれば、それ

にNPOが関わることは絶対必要です。ただ問題は議会そのものの質が低い。最近、デリバレイティイブ・デモクラシー（熟議民主主義）が語られることが多いけれど、本来、最も討議が活発であるべきところは議会なのに、誰も注目しない。情報とか圧力とか議員さんを利用するなど同時に、もつと大きく討論や政治を活性化させることが必要じゃないか。

**渡辺** その意味でひとつ考えら  
れるのは、NPO法は画期的だつ

たけど日本では議員立法はほとんどのないし、市民立の条例もなない。だから、市民側から条例化の動きをつくっていく。議員も勉強して討議せざるを得なくなるようにね。市民がそういう雰囲気づくりをするきっかけとして、こういう支援組織が、その拠点になつていくことも大事だと思う。

**中村** 条例づくりなんかは議員  
さんにまかせていたらしい仕事

で、なぜ条例をつくるといけないか、その前の現実をつくるのが私たち、NPOの仕事だと思うのですが。

ね。

**渡辺** 地域や暮らしを振り返つたとき、つくる必要のある事柄はいっぱいあると思う。

**岡本** できるようにするためにたとえば、校区に使われている税金を全部整理したかたちで情報公開すれば、自分たちの地域での税金の使い方としてこれでいいのか、ということになる。

そして、制度的に決めてくことのパワーはすごいということをNPOの側が意識する必要がある。

しかし、今は市民による政策境が整つてきています。10年前とは全く違う。例えば、全国の条例データベースなどを使えば、先駆的な条例もすぐわかるようになつて。NPOからも、少なくともこの水準の条例をつくつてほしいとか、要求できるような環境が次第に整つてきています。

**村井** KECなんかが中心になつて、いろんな分野のプロジェクトX、先進事例をつくらないと

いけないんじゃないですか（笑）。

**今田** 最近の動きでいえば憲法の話なども、NPOももつと勉強して関わっていくべきではないかというふうに思つておるのですが、いかがでしょう。

**渡辺** 先ごろ、自民党的憲法改正試案（＊）が出ましたけど、そこで言われている公益とは国益イコールなんですよ（笑）。

要するに、「国家公益独占主義」の色彩が強い。だからNPOの側から、パブリックとは何か、それを担う主体とは何かを、さきほどの「補完性の原理」なんかも含めて声を出していく必要があると思います。9条についても、ガンジーの非暴力主義に通底する部分を消し去つてゐるという危惧が私にはある。NPOに限らずいろんなところで、もつと議論していくしくみをつくつていかなきやいけない。そのための場づくりもNPO支援組織の大なる役割と思う。

しかし、今は市民による政策境が整つてきています。10年前とは全く違う。例えば、全国の条例データベースなどを使えば、先駆的な条例もすぐわかるようになつて。NPOからも、少なくともこの水準の条例をつくつてほしいとか、要求できるような環境が次第に整つてきています。

**今田** 憲法改正に先立つて国民保護法（＊）ができるわけで、CODEなんかももろに関わつてきますよね。

## 市民社会は、暴力じゃない、話し合つて解決していきましょうというのが基本

（岡本）

野蛮人じやない、暴力じやない、話し合つて解決していきましょ



今田 忠さん

うつていうのが基本なんだよね。自分たちは言葉によつて、意見を交わしながら、いろんなやつがいるけど、とにかく我慢できないことを我慢しながら一緒に生きていきましょうつていうのが市民社会理念の核心なんです。

そういう、暴力の問題に敏感に反応するNPOがちゃんと役割を果たして、問題提起していくその議論には踏み込めてないですね。最後はやっぱり、たつた一人の命が大事だという、そこを原則として考えていくましょうということになると思うんですね。国境を越えて、世界市民としてどう考えるかになるんだろうと思います。

**岡本** いろんなNPO、右も左も左もいていいわけですよ。その多様的であるということはそういうことで、どちらにせよもう少し政治的にアクティブなNPO、政策系NPOを活性化するのが大事だと僕は思います。いろんな人たちで政治に関わつたり議論ができたり、考え方の場所をつくつていく。市民社会、シビルソサエティつていうのは、バーバリアンに対するシリテイ、

\*注

「補完性の原理」

生活保障賃金。アメリカで浸透してきた地方自治にかかる基本原則のひとつ。行政サービスは住民に身近な市町村が優先的に行い、市町村が対応できないものを都道府県が、都道府県が対応できないものを国が補完する、とするもの。

「リビングウェイジ」

武力攻撃や大規模テロに対し、国民の生命と財産を保護し、国民生活や国民経済に与える影響を最小にするため、国・都道府県・市町村・放送事業者などの指定（地方）公共機関の責務、国民の協力、具体的な措置について定めたもの。

「自民党的憲法改正試案」

05年7月7日に発表された自民党的の改憲要綱第1次案。前文で「国民統合の象

徴たる天皇と共に歴史を刻んできた」とては、平和主義の原則が不变であることを盛り込んだ上で「自衛のために自衛軍を保持する」と明記する。国民の「国防の責務」については、今後の検討課題とされる。

「国民保護法」

武力攻撃や大規模テロに対し、国民の生命と財産を保護し、国民生活や国民経済に与える影響を最小にするため、国・都道府県・市町村・放送事業者などの指定（地方）公共機関の責務、国民の協力、具体的な措置について定めたもの。

具体的には、役所やテレビ局、病院など

は「戦時」に備えた計画策定や組織整備が求められ、地域ボランティアへの協力を掲げられている。

05年8月9日、KEC事務所にて。  
記録・まとめ=ハツ塚一郎

## 連載④ 市民メディア「はっしー」



### ◇日本中の人と 対話のキヤツ チボールを

7月に神戸に招いた  
「OurPlanet-TV」の  
代表、白石草さんが残  
していったメッセージ  
がことの始まりだった。  
こんなメールが彼女か  
ら届いた。

- ★★全国縦断  
1000人対話の  
旅プロジェクト★

市民がメッセージを発信して  
いくということでは、私はこれ  
までかなりアクロバットなこと  
をやつてきた。手作りの送信機  
とアンテナでFMわいわいの前  
身のミニFM局をはじめたり、  
まだアナログの電話回線でイン  
ターネットに接続していた時代  
にFMわいわいをインターネット  
放送という手立てで世界どこ  
でも聴けるようにしたり、お金  
がないなりに志を同じくする仲  
る。

間達とともに多くの人達にメッ  
セージを伝えてきた。それが市  
民メディアの一つの形だと思つ  
てきた。

しかし2005年の夏に出会つ  
た一人の若者は、市民メディア  
とは何かを、実に新鮮な手法で  
教えてくれた。連載の第4回は  
メールには制作者の大学生か  
らのメッセージも記されていた。  
橋爪明日香ことはっしー  
の上映会&トーク希望者は  
ブログにて旅行行程を「ご確  
認の上、OurPlanet-TVまで  
希望をお寄せください。

「いてもたってもいられ  
なかつた去年4月のイラク  
拘束事件。あれから1年4ヶ  
月、”自分にできること”を

ココロとカラダで考え抜い  
た結果、短編ドキュメンタ  
リーという形で表現しまし  
た。

私が伝えたいのは、「無  
関心にならないで!一緒に  
想像しようよ」というコト。  
私が制作した番組はあくま  
でキッカケとしての投げか  
け。若者の生き方でも、日  
本社会のことでも、イラク  
のことでも、世界のことで  
も何でもいいから、日本中  
の人と対話のキヤツチボー  
ルがしたいんです」

招いた。

### ◇上映会から対話へ、 コミュニケーションへ

橋爪さんは東京在住の大学二  
年生。作品の完成とともに東京  
を飛び出した彼女は、長野、新  
潟、札幌、茨城、東京、神奈川、  
浜松、名古屋、京都、大阪と青  
春18切符とバイクで各地をまわ  
り、8月末に神戸にやってきた。

た。昔から市民運動の世界では、  
自らがテーマとしている活動の  
社会的な問題点を描いた映像を  
自主制作し、カンバを呼び掛け  
ながら全国の仲間達に上映会を  
開催してもらい、運動を拡げて  
いく手法はあった。学校や公民  
館、教会など様々な場所を会場  
に、それなりに見応えのあるド  
キュメンタリー作品が上映され、  
運動への寄付などが行われた。  
それとどう違うのだろう? そ  
して、路上とはどういうことな  
んだろう? そこに強い関心を  
持ち、橋爪明日香さんを神戸に



対話集会での「はっしー」こと  
橋爪明日香さん

た半年間の記録映像だ。

作品の上映時間はわずか15分ほどだった。そこには彼女しか撮れない18歳の今井君の姿があつた。

しかし、期待が大きかつただけに「え?!!」ただけ?とも正直感じた。参加者の評価もまちまちだった。

「せつかく密着取材をしたのだから、もつたいない」という制作技術の未熟さを指摘す

る声もいくつかあがつた。彼女は開かれた。会場となつた「たかとりコミュニティセンター」に集まつた多くの人達は、対話

共催で「はっしーとの対話集会」は開かれた。会場となつた「たかとりコミュニティセンター」

ユース」とFMわいわいなどの

公園ではピクニックシートの上に蓄電器とテレビモニターと座布団が用意され、通りがかりの

女子高生達に作品を観てもらつていて。そして驚いたのは、デジタルビデオの液晶パネルを拡げて道行く若者に声をかけて作品を観せて対話をしているのだ。

感想が次々と述べられていく、次第に彼女を交えての参加者同士のコミュニケーションへと発展していく。私達は次第々々に彼女の世界に引き込まれていく。

上映作品「みんな、空でつながっている イラク拘束事件・今井紀明君に会って」は、2004年春にイラク邦人拘束事件で日本中から「自己責任」のバッシングにあつた18歳の少年、今井紀明君を密着取材し、その時、彼が何を思ったのかを、同じ若者の視点で見つめ

彼女から声がかかる。映像15分・交流75分、合わせて90分が対話集会のワンセットなのだ。

そして最後にもう一本のビデオが上映された。これまでの全

国行脚の模様を撮つたものだ。今井君も映つている。彼女の上

映運動は、スクリーノもプロジェクターも暗幕も要らない。ある

公園ではピクニックシートの上に蓄電器とテレビモニターと座

る声もいくつかあがつた。彼女は初めてから大した問題ではなかつたのだ。

彼女の映像について参加者の

感想が次々と述べられていく、次第に彼女を交えての参加者同

士のコミュニケーションへと発

展していく。私達は次第々々に彼女の世界に引き込まれていく。

ひとしきり場が盛り上がり、と

次会へと続くというが通常の集会の流れだが、それはみごとに裏切られる。「はい、これで交流のパートは終わりです」と

の好きな場所にシールを貼つてください」と彼女が問い合わせないといふ。シールを貼ると「どうしてそこに貼つたんですか?」と。けないとと思った。彼女は月下旬に「多文化な市民メディア交

人が集まつてきて、言葉のキャッチボールが始まる。終始、彼女のベースでことは進み、あつと

いう間に時は過ぎていった。

彼女が帰つた翌日に、白石さんから最初に送られてきたメー

ルを読み返してみた。

「私が制作した番組はあくま

でキッカケとしての投げかけ。

若者の生き方でも、日本社会のことでも、イラクのことでも、

世界のことでも何でもいいから、日本中の人と対話のキヤツチボーリがしたいんです」

そうか。メディアは彼女自身

だつたのだ。文字通りの市民メディアだ。知恵と工夫と行動力を

続していく。メツセージノートにブログ、さらには世界地図が書かれた模造紙を広げて「自分

連載のタイトルを「市民メディア革命の予感」から「市民メディア

く革命の実感」に変えないといふ。シールを貼ると「どうしてそこに貼つたんですか?」と。けないとと思った。彼女は月下旬に「多文化な市民メディア交

人が集まつてきて、言葉のキャッチボールが始まる。終始、彼女のベースでことは進み、あつと

いう間に時は過ぎていった。

参考サイト  
[http://www.ourplanet-tv.org/main/contents/planeteyes\\_f.html](http://www.ourplanet-tv.org/main/contents/planeteyes_f.html)  
<http://blog.livedoor.jp/tsstvasu/>

## ◇メディアは自分自身



### 日比野 純一

【筆者紹介】  
水産大学校で学んだ後、新聞記者に。  
退職直後の1995年2月、阪神・淡路大震災の救援ボランティアとして神戸に向かい、被災外国人の支援活動に従事。1996年1月、多言語コミュニティ放送局「FMわいわい」の立ち上げに参画。以降、多文化共生のまちづくりの日々である。KEC正会員。

## ■「正しい」情報は、ない

9月29日の夜8時49分、阪神甲子園球場で金本知憲外野手は、相手チームの阿部捕手が放った右翼へのライナーを捕球し、阪神タイガースの05年度のセントラル・リーグ優勝が決まりました。

この内容は新聞・テレビ・ラジオで伝えられ、自分で体験したわけではないのに、ほとんどの人はこの記事を信じます。え、あなたは甲子園のアルプススタンドから岡田監督の胸上げを見て体験した? よかつたですね。しかし、当日の阪神—巨人22回戦が今年のセリーグのペナントを懸けた重要な試合であることをどうして知りましたか? 球場で阪神のすべての試合を観戦したのではないですね。おそらく友達との会話や新聞などによってその情報を得たから、胸を躍らせて球場に足を運んだのでしょうか。ニュースという、事実を伝える情報によって感動したり、行動したりしていることになります。

ニュースのような日々生産されるフローの情報のほか、わたしたちは、ストックされた情報=知識を内蔵し、それが自分の世界観を育み、生きていくうえでの手がかりとしています。この知識形成に関わる情報の多くは教育という手段を通じて体系的に与えられました。

では、教育はどのような情報を与えるのでしょうか。歴史の世界では、一人の考古学者が旧石器遺跡の捏造を続けたことによって、9つの歴史教科書が間違った

角形の2辺の和は、残る1辺よりも長い」という「真理」の代表のような命題があります。

しかしこれとてもユーダリッド幾何学という約束ごとの体系のもとにおいて真理であるに過ぎません。科学方法論の世界では、それが「反証されない限りで正しい、すなわちあらゆる理論は仮説である」という考え方があります。

# 市民の情報化、情報の市民化

KEC副理事長 森田 博一



このコーナーでは、そんな「遠いけどホントは近いこと」「小さいけどホントは大きいこと」をみつめてみます。

## ■情報に向き合うための三つの姿勢

このように、わたしたちの「知っている」ことのほとんどは、見たり聞いたりしたことにより存しており、正確にはそのほとんどは既存の情報のままだ。そこで、この三つの姿勢について、その「らしさ」をつけるべきものであります。「タイガースが優勝した(らしい)」「サダメ・フセイン支配下のイラクは大量破壊兵器を持っている(らしい)」などなど。

そうすると、情報はそのまま受容するものではないし、与えられっぱなしではないいけないのでしょうか。情報に

対して次のような姿勢が求められます。

第一に、与えられる情報だけでなく、さまざまな情報源に接し主体的にこれを読み解くことが、情報の精度を高め、また視野を広げます。たった一つの情報に頼らない言葉による情報だけではありません。人びとの表情、電柱のビラ、緑の変化:情報はまちにもあふれています。多面的に情報を獲得することが大切です。

第二には、情報の性格や背景を見極めること。わたしたちはとりわけマス・メディ

アを日々の多くの情報を得ており、メディア自体とそれが発信する情報をしっかりと見つめること。

第三に、情報をみずから生産、発信すること。情報を生産するという作業のほとんどは、既存の情報を再編集することから成っています。この再編集の過程において、個々の情報自体のもつ問題性をはつきりと認識できます。

## ■情報発信も市民の手に

「情報社会」と呼ばれます。しかし、情報はいつの時代においても政治・経済・軍事を動かしてきました。江戸時代、商人は山々の頂上を結ぶ旗信号によっていち早く米相場を遠国に伝えました。明治時代、バルチック艦隊は対馬海峡と津軽海峡のどちらを通過するのかという情報は、わが国の存亡を左右するものでした。

ただこれらの情報を扱う主体は、一握りの商人やごく一部の支配層であったという点が現代と異なります。現代の特徴は、発信される情報の量が巨大になっただけでなく、われわれ普通の市民がそれを享受できるようになつたという「市民の情報化」と、一人ひとりが世界中に情報を発信できるようになつたという「情報の市民化」(=民主化)(当紙連載「市民メディア革命の予感」(日比野純一)のテーマです)でしょう。これが健全に発達するためには、情報の語尾にいつたん「らしい」をつけて考えてみることが大事なのです。

## ■拡大する新メディア フリーペーパー

ここ最近、「フリーペーパー」が盛り上がりつてゐると思いませんか。

カフェやセレクトショップ、駅の構

内など街の色んな場所でたくさんのフ

リーペーパーを手に取ることができま

す。JAFNA(日本生活情報紙協会)

によれば、フリーペーパーとは「特定の読者を狙い、無料で配布するか到達させる定期発行の地域生活情報紙誌で、イベント、タウン、ショッピング、求人求職、住宅・不動産、グルメ・飲食店、ショッピング、演劇、エステ・美容、レジャー・旅行、各種教室など多岐にわたる生活情報を記事と広告で伝える」とあります。

フリーペーパーは、行政区画ごとに配布エリアが決まっている新聞や、大

規模な広告しか行えないテレビに比べ、柔軟に特定の範囲、商圈や購買層に配布が可能で、広告効率が良いこと、地域に密着した情報を提供し、双方向性を保つことができるなどから、第5のマスマディアとして急成長中のようです。フリーペーパーのそもそも生い立ちは、戦時に新聞社が国策で統廃合された経緯から、その反動として地域情報を提供するメディアとして発達したことですが、現在ではこれまでの新聞社が付加価値を高めるために顧客に配布する無料の地域新聞や



# いまアナタが 伝えたいことはなんですか？

KEC職員 大原 ゆい

遠くに見えるできごとが、わがたちの日常の活動や暮らしに関わっています。身近すぎて見過ごしてしまうようなできごとが、広い世界とつながっています。

生活情報誌や、当初から無料で配布することを目的に制作されるものも存在しています。現在、刊行されているフリーペーパーは、一説によると2千媒体、発行部数はなんと3億を超えていたといふから驚きです。

### ■「ならでは」の掲載記事

さて、そんなフリーペーパー、少し前までは求人情報やクーポン券が主流でした。が、今では大きく分けて、①コミュニケーションペーパー、②ターゲット・メディア、③ニュースペーパー、④タウンペーパー／タウンマガジン、⑤広告マガジン／クーポンマガジンという種類があり、その内容も環境問題を考えみたり、宇宙を感じてみたり、ライフスタイルを提案してみたりと、本当に多種多様でオモシロイのです。電車の中で読んで、クーポンをちぎって、着いた駅でゴミ箱行き、サヨウナラ～が当たり前、というのとは少し違うようです。確かに、どのフリーペーパーも毎回毎回才モシリイ！というわけではありませんが、他のどんな紙媒体にも掲載されないような記事があるのは事実です。

この「どんな紙媒体に掲載されないような記事」というのは、決して「インターネットなどのもの」だけを指しているではありません。実際、いまWeb上では「どんな紙媒体にも掲載

されないような」テキストを読むことができますが、ではそれをそのまま載せたフリーペーパーを作ればオモシロイものになるのか、というとそうではない気がするのです。

### ■受信も発信も、 だいじなのは目的意識

ネット以前と以後とでは、紙媒体の中でもフリーペーパーのような、無料コンテンツの存在意義は大きく変わったと思います。では、紙でしかできないもの、フリーという媒体でできるものとは何なのでしょう。その答えが果して紙面に出ていてるか、作る側だけではなく、読む側もメディアを選択する上で、考えてみたほうがいいことだと思います。

いずれにしても、紙でもWebでも、しっかりと目的意識をもつたコンテンツを発信していくことが大切なのがもれませんね。クーポンを配るといつて、街の活性化を考えてやっているのなら歓迎ですが、そんなこと別に考えてなくてただ儲かるからってばらまかれるのも…。「情報の市民化」と「市民の情報化」が進む中で、あなたがイチバん伝えたいことは何ですか？

中田 豊一の

# ラオス通信

## 第3回 すべては信頼から始まる

昨年2月からJICAの長期専門家としてラオスに家族ともども在住している  
KEC前理事長・中田豊一が伝えるラオスレポートの第3回です。

ラオスでの残りの任期もあと半年を切った。ここまで過ごして来て、大きな誤算が二つあった。

ひとつは、ラオス語がさっぱり上達しないこと。いまだに買い物がやっとで、村人との対話など夢のまた夢だ。最後まであきらめずに、少しずつ慣れしていくしかないのが・・・。

もうひとつはうれしい誤算。プロジェクトの中心的な働き手となる地方の農林課の職員の能力とやる気が、当初聞いていたよりもはるかに高かつた。赴任当初に読んだ各種報告書には、「地方の農林普及職員の技能が足りない、意識が低い、経験がない、加えて活動予算がない、交通工具がない」など無い無い尽くしのコメントが並んでいた。ところがいつしょ

ういうことはない。皆が素晴らしいわけではないが、使いものにならない者もほとんどいない。どの社会にでもいる程度の人材がここにもいた、というわけである。では、このばかばかしいほど当たり前のことだが、どう

仕事をしてみると、ぜんぜんそういうことはない。皆が素晴らしいわけではないが、使いものにならない者もほとんどいない。どの社会にでもいる程度の人材がここにもいた、というわけである。では、このばかばかしいほど当たり前のことだが、どう

だから私は、ラオス人のスタッフたちに対して、「誰のための活動なのか? 活動の主体は誰なのか? 私たちの役割は何なのか?」とひたすら問い合わせ続けた。その問い合わせを胸に村人に接する

と、自然姿勢が変わってくる。すると村人は普段見せない実力を披露し始める。

「村人は、活動について本當によく知つているけれど書けないだけ。できるけれどうまく語れないだけなのだ」

JICAのプロジェクトである水道開通を祝う席で、ナモン村村長と筆者



して歪んで伝えられるのか?

外から入る者(つまり援助関係者)や中央政府の官僚が、仕事が進まない言い訳にそれを使ふからだ。すると、地方の職員被援助者との間に築かれる関係は2つのパターンしかない。「相互依存」か「相互信頼」かの二つに一つだ。残念ながら、折衷

事は簡単だった。

援助協力において、援助者と被援助者との間に築かれる関係は、活動がうまくいかないことからだ。すると、地方の職員は、活動がうまくいかないことは、活動予算がないこと、車両がないこと、などを村人の無知蒙昧のせいにする。

KECの理事の端くれに名を連ねる私にとって、それは人ごとなではない。そもそも日本に戻つてからのことを本気で考へる時

すべては信頼から始まるといふわけだが、ここラオスの村ほどそれが簡単なところはなかつた。とにかく農村共同体が強く、相互扶助機能が著しく高い。だから村のリーダーたちに全幅の信頼を置ける。今のところ7つの村で活動しており、全体に順調だが、よく観察してみると、信頼関係の度合いがそのまま活動の充実の差となつて現れていくようと思える。

では、日本のNPOの皆さんにとって、「信頼の関係」とはいつたいどんなものだろうか。「依存」と「信頼」の関係の違いは、具体的な活動の中で、どうにどう現れて来るのだろうか。

KECの理事の端くれに名を連ねる私にとって、それは人ごとなではない。そもそも日本に戻つてからのことを本気で考へる時

速報

# NPOの『政策提言力向上セミナー』開催!

NPO/NPOにおいては国や自治体の政策に関わっていくことが重要だといわれています。ど目の前の課題解決が先になり、当事者へのサービス提供などが、社会のしくみを変える」ことまで、なかなか手が回らないのが現状です。

私たちは03年春、「NPOの政策提言力」向上を目的としてアドボカシー研究会を発足させ、



○2005年11月5日・6日(実施プログラム詳細)

講師	プログラム内容
秋葉 武 (立命館大学産業社会学部助教授)	○概論「政策提言のさまざまなパターン」 政策提言のさまざまな事例から政策に関わる主体(アクター)を分析し、有効な政策提言のあり方を考える。
小谷 敦 (兵庫県市町振興課課長)	○政策立案過程(1)「行政の意思決定について」 政策がどのような過程を経て企画・立案され、決定されるのか。予算の組まれ方や議会との関係など、その基本的な流れについて。
相川 康子 (神戸新聞社論説委員)	○政策立案過程(2)「大震災後の政策形成の振り返りとこれから」 大震災の復興過程では、政策形成の面でも特殊な社会実験的手法が用いられた。その手法の先駆性と限界、そして現在の状況を振り返る。
山下 淳 (同志社大学政策学部教授)	○「政策」をめぐる新たな状況 地方分権一括法、政策評価、行政評価、そして「官から民へ」の流れといった、NPOと政策取り巻く環境の大きな変化について考える。
中川 幾郎 (帝塚山大学大学院法政策研究科教授)	『市民参画』とNPO 「市民参画の政策づくり」が全国でどのような状況にあるのか。自治体はそれをどのように位置づけているのか。自治体の政策そのものが大きな曲がり角に来ている現在、「市民参画」の課題とNPOにとっての可能性を語る。
藤井 純子 (滋賀県環境生活協同組合理事長)	『菜の花プロジェクト』という政策提言 全国に展開した「菜の花プロジェクト」の主唱者に、その苦労や政策提言としてのポイントを伺う。プロジェクトの初期段階のことや、藤井さん自身のこれまでの歩みについて。

パネルディスカッション: 「NPOからの政策提言」を考える(コーディネーター: 相川 康子)

布藤 明良(兵庫県生活協同組合連合会相談役)  
松岡 孝司((特)アップストリーム障がい者支援センター副理事長兼事務局長)  
加田 裕之(兵庫県議会議員)  
中川 幾郎  
藤井 純子

◆全体進行: 実吉 威 ◆研究会座長: 今田 忠

政策提言を実践してきたNPO、行政・議会関係者へのヒアリングや公開フォーラムを行つてきました。その成果を地元のNPOと共に共有するため、去る11月5・6日神戸市立総合福祉社会館とあすつづKOBにて2日間にわたるセミナーを開催しました。

遠くは秋田県より、のべ50人を超える方々にご参加いただき、「NPOの政策提言」への関心の高さがうかがえました。

1日目は当研究会メンバーと兵庫県市町振興課課長の小谷敦さんによる講義とワークショップ、二日目は各地の行政と市民の協働事例に詳しい中川幾郎さんと、琵琶湖を守る「せつけん運動」展開中の藤井純子さんの講演、「菜の花プロジェクト」を全国に迎えてパネルディスカッションを行ないました。両とも長時間に及ぶハードスケジュールだったにも関わらず、参加者の方々からは「時間が足りない」「もっと詳しく」とのご要望をいただき、連続セミナーの開催など、今後当研究会がとりくむべき課題を得ました。

NPOの政策提言力向上のための研究はまだ発展途上にあります。これからも実践に役立つ情報発信・共有の場づくりを行なっていきたいと考えています。

なお、セミナー当日資料は若干の余部を3千円(KEC会員)は2千円で販売しております。また、今年度末に向けて、セミナーの記録と成果をまとめたハンドブックの出版を予定しています(価格未定)。刊行の際にはぜひ手にとつて、ご覧ください。

(前川典子)

# みみずく舎 をオープンしました

このほどKECは事務所をこれまでと同じビルの3階から1階に移し、商店街に面した「カフェ」を持つスペースとして新装オープンいたしました。

## ご挨拶① 事務所を移転しました

02年春以来3年余り、元町商店街の西の入り口にある秋毎ビルの3階でKECとわーす（生きがいしごとサポートセンター神戸西）の事業を行ってきましたが、このたび大家さんの後押しもいただき、1階に事務局機能を移しました。KEC、わーすおよびしみん事業サポートネットワーク、それにHYOGON（ひょうご市民活動協議会）なども含め、8月後半より日常業務は1階で行っています。

## ご挨拶②

### 「みみずく舎」は多機能の市民活動支援センターです

ショッピングのついでにちょっと立ち寄れる市民活動の入り口、NPOという世界へのツーリストインフォメーション。そこに行けばNPOの活動が見える、触られる——移転を機に、そんな場が実現しました。

### ・1階（カフェ・物販・情報＝市民活動のショーウィンドー）

商店街に面した十数坪は、カウンターキッチンを備えたバリアフリーのカフェ。一画にはフェアトレードや障害者作業所での製品を置く物販コーナー。商店街という立地を販路拡大に活かしていただこうと考えました。カフェはイベント会場にも活用していきます。さらに、壁一面に市民活動はもちろん社会学・政治学・歴史・哲学など、さまざまな分野の書籍・資料がずらりと並び、会員には貸し出します。大半は今田忠理事からのご寄贈です。またこれまでどおりNPOの関連情報や、わーすで扱っている求人票などもあり、お茶を飲みながら買い物したり、本を読んだり、チラシを見たり。市民活動への気軽な入り口として、また市民活動団体のみなさんにも使っていただける場として機能したいと思っています。



### ・3階（NPO共同オフィス）

KECやわーすの事務局が出たあの3階は、ブースを区切って1デスクから数坪までの賃貸オフィスとしました。もともとわーす事業の一環で「インキュベートオフィス」4ブースを提供していましたが、さらに6区画が増えました。

これら1・3階を合わせて「みみずく舎」と呼び、初心者からベテランまでさまざまな市民活動の関係者が交流する拠点としていきたいと思います。

## ご挨拶③ 有限会社みみずく舎をつくりました

スペースが倍になり、賃貸部分が増えることから、おもにその管理とカフェ運営および物販に携わるものとして、別組織（有限会社みみずく舎、代表取締役＝実吉威）をつくりました。KEC正会員の約半数から出資金が集まり、新しい場に夢を託されています。



## お礼 お披露目へのご来場、ありがとうございました

残暑の中にも秋の気配ただよう9月23日、「みみずく舎」のお披露目をしました。ミニフォーラム、看板除幕式、大交流会と盛りだくさんのプログラムに、昼過ぎから夜が更けるまで、総勢350人の方々がお越しください、門出を祝っていただきました。

オープンして約2カ月、立ち寄ってくださる方は予想以上に多く、スタッフ一同嬉しい悲鳴をあげています。このスペースを使っての企画も、いくつもご提案いただいています。好立地を生かすも殺すもアイデア次第、みなさまからお知恵をいただきながら、ここだからできることを行っていきたいと思います。どうぞよろしくご活用くださいませ。 (やそ)

KEC通常総会ご報告

9月23日、みみずく舎のお披露目に先立つて、KEC通常総会を行いました。04年度事業報告・決算を承認したのち、05年度事業計画・予算について、とくに1階という場を活かしてどんな事業展開が可能か、意見を交わしました

05年度の事業は次のとおりです。  
ご参加・ご利用、またご支援を  
お願い申しあげます。

○=重点事業  
★は総会時点ですでに終了  
※は他団体との連携事業



2005年度 事業一覧 (2005.7.1~2006.6.30)

## <1. 運営相談および人材育成事業>

- 1-1 相談事業【八十】  
○ 1-2 わーす(生きがいしごとサポートセンター神戸西)事業 ※【八十・石川】  
1-3 研修事業  
1-4 インターン等受け入れ事業【八十】  
新1-5 アドバイザー派遣事業 ※【武藤】

## ＜2、情報提供事業＞

- 2-1 復興・市民活動情報誌「みみずく」【大原・富永】
  - 2-2 KEC Web【前川】
  - 新2-3 会員向け情報サービス（ファクス通信など）

### ＜3、交流および協力関係の促進事業＞

- ### ○3 サロン事業

#### ＜4、講師派遣および研修コーディネート事業＞

- #### ○4 学び支援（講師派遣）事業【八十】

## ＜5、調查研究、政策提言＞

- 5-1 アドボカシー調査（NPO政策提案力調査）事業 【前川・大原】
  - 5-2 木口ひょうごNPOセンター研究会（KIP）事務局 ※ 【前川】
  - 5-3 その他の調査研究事業 【大原】
  - 5-4 政策提言活動 【実吉】
  - ★ 5-5 「KEC10年史」の発行事業

## 〈6、事務局受託事業〉 ※

- 6-1 ひょうご市民活動協議会(HYOGON)事務局【前川】  
6-2 しみん事業サポートネットワーク(SBSN)事務局【実吉】  
★6-3 市民社会推進機構(CAS)事務局【八十】

## ＜7、その他の事業＞

- 新7-1 ネットワーク活動・他団体の役員就任、各種の会議・研究会等への参加 【実吉】  
新7-2 NPO共同オフィスの運営ならびにみみずく舎の運営協力

みみずく倉オープンに際したくさんのお祝い・ご来場

ありがとうございました

ここに感謝を込めてお名前を記します

(特)「」祝儀	（特）あいあいネット神戸 秋毎株
秋山 武	（特）アップストリーム障 がい者支援センター
池田啓一	（株）エイムわいわば／ール ・ム・ムニアケーション
岡内克江	（特）大阪NPOセンター
岡本仁宏	（株）内閣法規出版（株）
柏木康子・牟田敬子	林 康子
片山泰造	（特）パラレルサポート foocafe
加納花枝	（リンク）神戸
関西地所株	（リンク）ストカウンセ
岸 桂子	望月美佐
高龍弘・申元美	山北貴子
（特）神戸まちづくり研究所	リーフ・T・リズム
（特）COM総合福祉研究所	リングリング／（特）つなぐ
坂本 勇	▼お酒・お菓子など
（特さつき）	（株）甲南堂印刷
坂本耕二	河野正和
常松貞雄	季村敏夫・範江
（特）みづの会	木村光利・藤原純一・弓岡敏伯
伯 楽	櫛橋行雄
原田昭子・橋本好子	高龍弘
（特）汎太平洋フォーラム	（特）コムサロン 21
（特）東灘地域助け合い ネットワーク	実吉照子
兵庫県神戸県民局	（特シニア）と創造塾
（特）福祉ネット寿	島田 誠
藤原雅人	菅磨志保
宮西悠司	鈴木隆太
森栗茂一	（特）すまみらい
（特）ゆいまーる神戸	田坂美代子
石川由紀	チャイルドライン神戸
NPO会計支援センター	（特）都市生活コミニユーティ ・センター
（特）関西NGO協議会	▼運搬）協力
神戸市民参画推進局	（株）夢工房
交友印刷（株）	山崎ゆり
広瀬満和	（株）夢工房
ひきこもりサポート	（特）都市生活コミニユーティ ・センター
センターカOAH	森本安理・告野浩三
（財）PHD協会	▼看板製作
秋毎（株）	（特リ・フォープ
（敬称略）	▼本棚製作



## KEC事務局カレンダー

2005.5.9～2005.11.8

### 「プロジェクト」

- 5.9.5.26.6.7.6.17.7.9 KEC10年史編集委員会
- 5.11.5.28.6.15.7.27.9.3.10.4.10.26.11.2 アドボカシー研究会
- 5.11.『CSO名鑑』記者発表
- 5.20 日産ラーニング奨学生面接（八十、幕谷）
- 6.3 KIP勉強会「障害者自立支援法について」
- 7.6 みみずく編集委員会
- 7.14.7.18.8.16.9.30.11.8 アドバイザー派遣共同者会議（実吉、武藤、八十）
- 7.21 兵庫県学童保育連絡協議会・神戸市学童保育連絡会3F共同オフィス入居契約
- 7.30 「HVPチャレンジ助成」5団体に推薦書
- 8.3 アドバイザー派遣事業コンペ（実吉、武藤）
- 8.9 みみずく座談会
- 9.7 アドバイザー派遣説明会（実吉、八十、武藤）
- 9.23 KEC10年史「みみずくいきづき まちがいろづく」発行
- 9.23～10.23 「みみずくとその時代」展開催
- 10.12 HVP法人化相談につき県庁と摺り合わせ
- 11.5～6 「政策提言力向上セミナー」実施

### 「ネットワーク」

- 5.12～13 ブラッシュアップセミナー熱海合宿（実吉）
- 5.17 日本NPOセンター理事会（実吉）
- 5.20 ばたんの会（実吉、幕谷、前川）
- 5.21 関学・災害復興研究会全体会（実吉）
- 5.21 被災地障害者センター総会、ひょうごんテック総会（実吉）
- 5.22 民主党ヒアリング@神戸（実吉）
- 5.22 協働会議「井戸知事とのさわやかトーク」（実吉）
- 5.23.6.28.7.20.11.1 SBSN理事会（実吉、八十）
- 5.24.6.9.6.30.7.14.8.30 CAS幹事会（八十）
- 5.25 PHD協会と「B.B.L.(Brown Bag Lunch)=屋食会」スタート（以後ほぼ毎月実施）
- 5.28 シニアしごと創造塾総会（八十）
- 5.28 鷹取教会感謝祭（全員）
- 6.2 HYOGON運営委員会（実吉、橋口）

- 6.5 「ほのフォトスクール」第2期入校式（八十）
- 6.6 NPO税・法人制度連絡会・日本NPOセンター総会（実吉、前川）
- 6.9.7.14.8.18.9.8 たんば・こうべ交流コンソーシアム会議（実吉、幕谷）
- 6.16 ひょうごんテック運営委員会（実吉）
- 6.23 HYOGON総会（実吉、橋口）
- 6.24.8.15.10.4 SBSN運営委員会（実吉、八十）
- 6.28 シニア生きサポート開所式（八十、橋口）
- 7.20 SBSN総会
- 7.23 CAS市民社会フォーラム（実吉、八十、宮部）
- 7.24 西須磨まちづくり懇談会10年史編集会議（実吉）
- 8.7 障害者自立支援法勉強会（実吉、前川）
- 8.19 民間NPO支援センターCEO会議（実吉、八十、橋口、前川）
- 8.20～21 NPO全国フォーラム（）
- 9.6.10.25 日本NPOセンター中長期ビジョン委員会（実吉）
- 9.19 生きサポート合同「CBフェア」
- 9.24～25 HYOGON合宿（実吉、前川、八十）
- 9.30.10.5 CSR連続セミナー（前川）
- 10.3 白いリボン運動実行委員会（実吉）
- 10.7.24 武庫川流域委員会（実吉、八十）
- 10.22 こどもコミュニティケア総会（八十）

### 「学び支援」

- 5.12 民主党ヒアリング@東京（実吉）
- 6.27 日産ラーニング奨学生第8期キックオフ（幕谷、宮部）
- 7.3 市民サポートセンター明石（実吉）
- 7.16 ブラッシュアップセミナー@横浜（実吉）
- 7.30 NPO支援センタースタッフ研修[事務局長の仕事]（八十）
- 7.30 広報力向上セミナー「うまく伝える15のヒント」@伊賀市（実吉）
- 7.31 ブラッシュアップセミナー@福岡（実吉）
- 8.5～6 わーすスキルアップ講座（実吉）
- 8.25 兵庫県経済雇用再生加速会議（視察）
- 9.6.23.10.20 県職員「ボラターン」阪上幸代さん、砂原孝さん受け入れ
- 9.9 日本NPOセンターよりインタビュー（実吉）

- 10.16 AWEP・外国人女性のためのCB起業講座（八十）
- 10.18 JICA研修生受け入れ
- 10.29 ブラッシュアップセミナー@徳島（実吉）
- 11.8～10 トライやるワーク受け入れ（中学生3名）

### 「みみずく会員連」

- 6.3 「有限会社みみずく舎」登記申請
- 6.7 秋每櫛社長らと懇談（実吉、森田、今田、中田、八十）
- 6.9 「有限会社みみずく舎」登記完了
- 8.1 離陸応援成2次審査（実吉、幕谷、八十）
- 9.5.10.5 小規模作業所新商品開発実行委員会「改革の日」会議（実吉、幕谷）
- 9.15 フェアトレード販売委託者との打ち合わせ
- 9.23 KEC総会、フォーラム、「みみずく舎」お披露目パーティ
- 9.26 ソーシャルベンチャーAワード（審査員特別賞受賞）
- 10.13 カフェボランティアさん初登場
- 10.14.20.28.11.4 オープン記念・わーすカフェ
- 10.20～23 アフリカンアート展
- 10.21 ライブライバー会議（今田、実吉、幕谷、宮部、八十）
- 10.27 施工関係者へのお披露目・感謝の集い
- 11.8 みみずく舎入居団体顔合わせ交流会

### 「事務局会員連」

- 5.19.8.10.9.16.11.1 KEC理事会
- 5.21～22 ファシリテーター養成講座（八十、前川）
- 5.28 大阪ボランティア協会講演会（幕谷）
- 6.10～11 日本NPOセンター初任者研修（石川、幕谷）
- 6.14 新スタッフ・橋口文博勤務開始
- 7.1 江口聰勤務開始（～9.30）
- 8.4 飛田・宮崎両監事による会計監査
- 8.12 アルバイトスタッフ山崎まだか退職、渡仏
- 8.15～16 3階から1階へ引越
- 8.29 宮崎監事による会計セミナー
- 9.14.10.19 KEC運営会議
- 10.11 新スタッフ・前川大勤務開始
- 11.5 新スタッフ・富永恭世勤務開始

# 会員のみなさま

ご入会・ご継続ありがとうございました！  
みなさまからのご期待に応えるべく、一同努力してまいります。  
今後ともよろしくお願ひいたします。

団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人
神戸市	阿部嘉男	兵庫県震災復興研究センター	高龍弘	神戸市	梶明	神戸市	秋葉武	三田市	箕浦庸夫
多可郡	山田和男	江口聰	寺子屋プロジェクト	大分県	河野正和	福岡市	安東由紀子	尼崎市	松岡孝司
○特)宅老所らまん	秦野八重裕	杉万俊夫	明石市	金谷信子	福森順子	山根金造	山下淳	高木市	高木
○特)ひょうご・まち・くらし研究所	吉兼由貴子	★伊丹市	★谷公一	★谷山県	★谷山県	★奈良県	★桂良太郎	尼崎市	秋葉武
神戸市	芦屋市	★実吉一夫・照子	小林郁雄	福岡市	福岡市	神戸市	柏木康子	尼崎市	松岡孝司
西宮市	○特)かめのすけ	伊丹市	吉兼由貴子	大分県	大分県	神戸市	神戸市	尼崎市	高木
神戸市	神戸市	神戸市	神戸市	神戸市	神戸市	神戸市	神戸市	尼崎市	秋葉武
○特)ひょうご	神戸市	神戸市	神戸市	神戸市	神戸市	神戸市	神戸市	尼崎市	高木
★(特)さつき	神戸市	神戸市	神戸市	神戸市	神戸市	神戸市	神戸市	尼崎市	秋葉武
兵庫県震災復興研究センター	高木	秋葉武	高木	秋葉武	高木	秋葉武	高木	秋葉武	高木

団体	個人	団体	個人	団体	個人
神戸市	高龍弘	三田市	箕浦庸夫	京都府	京都市
三重県	寺子屋プロジェクト	高木	秋葉武	尼崎市	秋葉武
大阪府	(特)コミニティ・エンパワーメント東大阪	高木	秋葉武	尼崎市	秋葉武
福岡市	パワーメント東大阪	高木	秋葉武	尼崎市	秋葉武
神戸市	(財)国際文化交流事業財団	高木	秋葉武	尼崎市	秋葉武
神戸市	(特)脳卒中者友の会	高木	秋葉武	尼崎市	秋葉武
兵庫県在日外国人教育研究協議会	兵庫県在日外国人教育研究協議会	高木	秋葉武	尼崎市	秋葉武
姫路市	高木	秋葉武	秋葉武	尼崎市	秋葉武
奈良県	高木	高木	高木	尼崎市	秋葉武
神戸市	高木	高木	高木	尼崎市	秋葉武
神戸市	高木	高木	高木	尼崎市	秋葉武
柏木康子	高木	高木	高木	尼崎市	秋葉武
小野市	高木	高木	高木	尼崎市	秋葉武
芦谷恒憲	高木	高木	高木	尼崎市	秋葉武

記	後	前
◆カブエオーブン、10年史出版、NPOのアドボカシ	の目を見られて良かつた。	（やこ）
（やこ）セミナー。春から突っ走	りすぎて少々切れ。丁	（やこ）
（やこ）超苦手な冬がやつてきま	した：冬の楽しい過ごし方	（やこ）
（やこ）どなたか教えてください。	（やこ）のみみずくです。無事、日	（やこ）マセン。
（やこ）（原）今号が私にとって初めて	（やこ）たながれのアドボカシ	（やこ）たながれのアドボカシ
（やこ）と執筆者のみなさま、スミ	（やこ）支援センター協会	（やこ）支援センター協会
（やこ）（付）たながれのアドボカシ	（やこ）（付）たながれのアドボカシ	（やこ）（付）たながれのアドボカシ

★新規 ◎2口 ▼学生  
2005年5月25日～  
11月25日  
(敬称略)